

## 森林整備Ⅳ

現地実習（海上の森大学実習林）

（間伐等）

日時：平成25年11月9日（土） 10:00～15:00

講師：あいち海上の森センター職員・海上の森の会

### 概況



森林整備Ⅳ 現地実習（森林調査、間伐）

第1時限目は、20m×10mの調査区を設定し、その範囲内でヒノキの胸高直径と樹高を一本一本測定しました。その後、掛かり木をしないように、木の大きさ、地形条件、周囲の樹木との間隔などを考慮して間伐する木を選定（選木）しました。

第2時限目は、いよいよ伐倒作業です。海上の森の会森づくりグループの平野講師と大澤講師にデモンストレーションをして頂きました。伐倒の際には、考慮すべきことがいくつもあります。

まずは、天候です。樹冠付近では、地上よりも強い風が吹き、風の影響を受けます。したがって、風が吹いているときは風の方向を考えます。次に、倒す方向ですが、斜面の横方向か斜め下方で、それぞれ30度程度の範囲内とします。伐倒するときは、“危険ゾーン”の範囲があり、樹高の1.5倍の範囲が危険ゾーンです。また、倒れる場所に物が置いてないか、そして掛かり木をしないように倒す方向に他の樹木がないか、倒れたときに跳ね返りを起こさないか、などを考慮して倒す方向を決定します。方向が決まると、掛かり木を防ぐために高さ4mくらいの場所にロープをネジ結びで結びつけます。このロープを引っ張ることで木が倒れる方向を誘導します。そして、切る部位に受け口と追い口の印をつけ、その印にそって木を切っていきます。

受け口とは、倒したい方向に木が傾くように木に切れ込みを入れることです。切り込みは、まず倒す方向に 90 度水平に入れ、そこへ45度の口を開けます。

最後に、追い口を切りますが、その前の安全確保のために、周囲にホイッスルを鳴らします。追い口というのは、受け口の反対側から水平に切り込みを入れていくことをいいます。

追い口を切っていくと、いよいよ木は傾き始め、ゆっくりと倒れてきます。この間、結びつけていたロープを引っ張り続け、掛かり木を防ぐとともに、想定した場所に倒れてくるように誘導します。

倒した木は、枝払いをして、造材します。今回は、伐倒した木で、土砂が沢に流出してしまわないように、斜面に“土砂止め”を作りました。山から流れ出てしまった土砂は、やがて川で堆積して川の水深を上げ、災害をもたらす原因にもなりかねません。そういった、山で災害を食い止めることも森づくりを行っていく上で大切なことなのです。